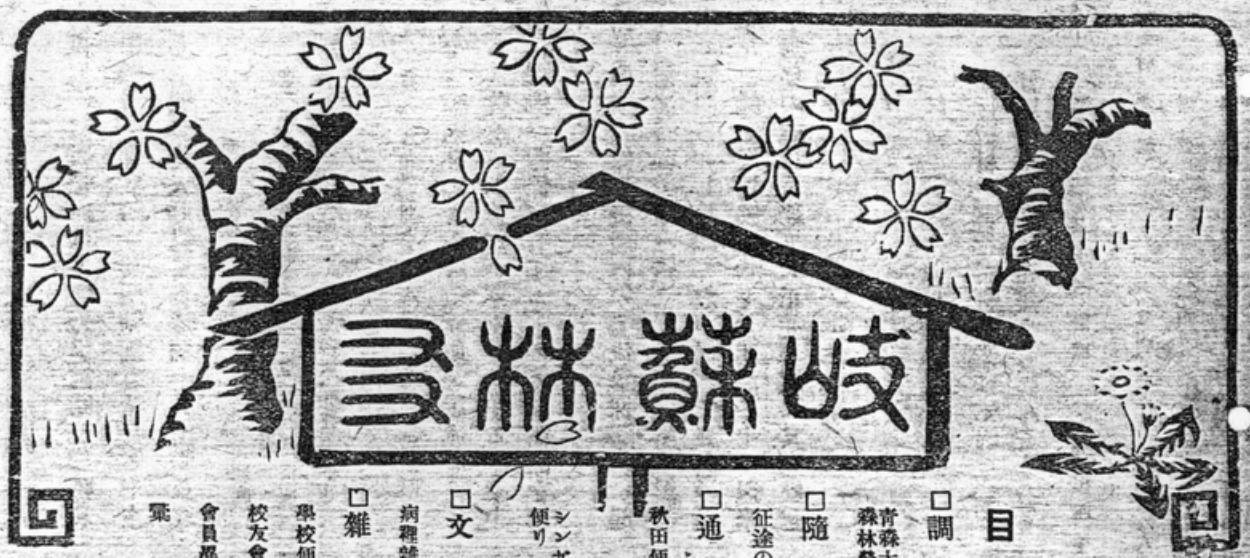
度



目次

□調査　青森大林區森林勞働
□隨筆　征途の思ひ出
□通信　秋田便り　シンガポール便り
□文苑　病躯雜詠
□雜報　學校便り　校友會便り　會員異動　彙報

大正八年四月廿五日　第百十四號　毎月廿五日發行　（明治四十四年六月十日第三種郵便物認可）

調査

青森大林區管內に於ける森林勞働

十一回卒　千村吉雄

多大の人命と富とを滅殺した古今未曾有の世界大戰亂は今や正義の勝利と軍國主義の破滅を証言して茲に平和の局を結ばんとして居る。然し戰後來る可き平和の戰爭即經濟戰は何時までも止むことはありますまい、又是に付隨した大問題である勞働對資本の激烈なる社會戰は愈々其の度を高めて來る事でせう、現に休戰と共に復員し始めた英米は既に失業者問題勞働者救濟問題が重大問題となつて居ると云ふ事である。

又此度の戰爭は國民多數の後援の必要を証明した、そして其の後援とは國民多數の生活資を作る生産業よりすることである而して此等直接生活に從事する所の勞働者の地位の上進せざるを得ないのである、茲に於て彼等勞働者は己が勞働に對する尊敬心を增すと共に資本主との關係は戰前の如くなる能はず彼等は必ず戰前以上の報酬を求め其の社會上の地位の一層高からん事を欲すならん、又戰爭中婦人能力の認められた結果は經濟上其當然の特權として更に男子は婦人との職業的競爭が新しく起つてゐる、

要するに戰後勞働問題は非常なる勢を以て勃興するに至る可く已に之に對し勞働組合の設立を叫び失業者の救濟を設く此問題の解決は世を擧げて研究するに至つた

翻つて我國現狀を見るに未だ英米の如く甚しからずと雖も一時非常なる勢を以て勃興した諸工業殊に軍需品の製造は平和克復と共に失業者を生じ或は轉職問題等が起つて此勞働問題の解決が我朝野の間に喧傳せらるゝに至つた、

更に眼を我森林勞働に轉ぜんか英米の天の如く或は他工業の如く甚しくはない然し早晚起つて來る大問題であらうと思ふ、徒ら其研究の如きも一日も忽諸に付す可からざるものがある、

諸兄の內には直接に又間接に森林勞働者に御接しなされて居らるゝ方も多かろうと思ふ、以下私の述べる所は甚だつまらないものであるが然しこれに依りて青森大林區管內に於ける森林勞働狀態を大体知るを得幾分とも御參考となる所があつたとすれば私の甚幸甚とする所である

（本調査の爲めに際し久保安藤の兩兄に多大の御便宜を與へられたことを茲に感謝します）

第一章 總論

青森大林區署管内は青森岩手宮城の三縣及秋田縣の一部に跨り其所轄國有林たるや主として彼の絶大壯偉なる陸羽中央山脈及之と並駢する北上山系を占め林相概ね優良にして其樹種は管内を鄕土とするひば、ふなを以て針濶兩種の大宗となし其他すぎ、まつ、もみ、つが、あをもりとゞまつ、なら、かへで、とち、かつら、しほじ、ほゝ、けやき等凡百有余樹種を交ゆ、而して此等國有森に對する施業按編成は已に大正元年度を以て完了を告ぐ

今旗業編成濟國有林の面積蓄積及年材量を示せば次の如し、

縣別	面積	蓄積 針葉樹	蓄積 濶葉樹	年材積	伐材積（針濶）（主材）	備考
	町	石	石	町	石	大正五年度調査
青森	四一三、八九五	五七、四二五、三五五	一〇〇、一四〇、一一八	五、四九一	六九三、〇七二	
巖手	四一四、七四七	七、七四六、九五五	九二、〇〇二、八九九	三、九三七	一〇五、一七八	
宮城	一二五、七九〇	三、四五六、七〇二	四、八、七四三、〇二四	一、五八一	四〇四、四三八	
合計	九五四、四二八	六八、六二九、〇一二	二四〇、八八七、〇四一	十一、〇〇九	八三八、六八八二、七二〇、九三五	

以下青森大林區管内勞働狀態を說述せんとするに先ちて同管内が年々施行する事業中森林勞働に關係を有するものゝ、概略を擧ぐれば

第一施業　維新後森林の濫伐暴採隨所に起り、舊藩時の美觀を擴く、林相漸く不整し陷る傾向ありしを以て之が保續的經營の基本たる施業案編成に着手し明治二十年以來十四年の歲月を經て大正元年遂に其完成を告ぐたるにより大正二年度よりは此等編成劑各事業區に對し、檢訂のみを施行しつゝあり

第二利用

イ、立木賣拂　管内巨萬の伐採を委く官營となすは事情これを許さず、又其他必要を認めざれば一部分立木賣買の制を採用しつゝあり、然して此れが毎年の賣拂高は用材二十八萬三千石薪材二百八十二萬石に達す。

ロ、官行研伐　利用上の關係、更新上の關係、保證上の關係並に其他の理由により明治三十三年始めて官行研伐の事業を企畫し爾來年を追つて其方法と設備とを改良し今や資材と積毎年七十萬石に達す

尙此れが年度別材積及事業費を示す時は次の如し

種別 / 年度別	大正三年度	大正四年度	大正五年度	大正六年度	大正七年度
研伐材積	石 六七、〇三二、八二	石 一二、二八三、五五五、三二	石 五七三、一四七、四九	石 六五七、七五二、七六	石 六五三、八八四、〇〇
事業經費	圓 二、八三三、五五五、三二	圓 二五一、八九五、六七	圓 六、六七	圓 二三七、四七三、八四	圓 二五九、八八五、三八

（豫定）五三〇、八四九、〇〇

ハ、官行製材　官行製材事業は相内、大鰐、木曾川等にて盛に經營せられんことあり

種別 / 年度別	大正三年度	大正四年度	大正五年度	大正六年度
製材資料	石 三六、三四二、二七	石 四〇、八八九、四三	石 三〇、六六八、九五	石 四〇、五七三、〇〇
事業經費	圓 二、一四一、三七	圓 二、二二、二三、七七	圓 一、三八七、一八	圓 一、三一〇、〇〇

しが、大正二年此れを滅殺し目下は木曾川製材所一つあるのみ、同所は日々百石内外の資材を製材しつゝあるものにして更に年度別製材資料等を示せば

二、森林鐵道　津輕森林鐵道は明治三十九年十一月を以て起工せられ已に工事竣工せ長

二、二三二貫なり

ホ、貯木場　木材置場として連年使用すべきものは貯木場とし地域を劃し留め場水揚げ及貨車積卸し等の作業に從事す今青森の貯木場に保管轉換せる數量經費等を示すときは次の如し

種別 / 年度別	大正三年度	大正四年度	大正五年度	大正六年度
保管轉換高	石 一二八、五二二	石 一三二、三九三	石 八〇、〇二五	石 一一八、八六五
事業經費	圓 二一、九七一、〇四	圓 二一、一二〇、二二	圓 一九、三二〇、九二	圓 一九、六三五、〇〇

豫定

第三造林　造林事業は人工植栽並に天然生高の二方法によりつゝあるものにして人工植栽は明治十八年に始まり漸次毎年植栽量表を增加しつゝあり最近造林面積を示せば次の如し

造林面積

年度	經營部 人工	經營部 天然	特別部 人工	特別部 天然	合計	備考
	町	町	町	町	町	
大正三年度	二、二六八、一八	一、四六九、四九	一、七三九、九九	四八、八〇	五、五二六、四六	實行
四年度	三、〇七〇、九〇	一、〇六六、八八	二、四三〇、七八	五六、三〇	六、六二四、八六	仝
五年度	二、五一三、一六四	二、五一一、六六	一、八二九、九〇	一〇七、六九	八、七〇二、四一	仝
六年度	三、二三六、五七五	六二九、八二	一、二二一、五一	五〇八、四五一	一〇、五九六、三五	仝
七年度	三、六三三、三一三	三、四六二、三四	七一一、二八	九〇四、八七	八、七一一、八〇	豫定

苗圃は概ね管内各小林區署毎にこれを設置し苗木の養成を圖りつゝあり現に共箇所六〇四百十町一反一畝二歩の總面積を有す

保護設備としては防火線の設置防蓄設備の築設修繕其他時に人を傭ひて火災其他の保護の任に當らしめつゝあり

第四土木　森林鐵道林道築設其他砂防工事等凡て土木に關する事業を行ふ今大正七年度に於ける土木事業の概略を示せば

項目	種類	個數	量	高等費	所要職工人夫數
林道	設計	七	二四、四八〇間	八三二圓	一、〇四〇人
新設	軌道、車道、牛馬道	七六	一六七、八九八	七三、六五七	五九、八四七
修繕	軌道、巡視前途	六二三	一、七五三、三七八	三八、四三〇	三四、一四九
雜費	鐵道外五種	一		一九	
合計	道				九五、〇三六
修繕	陸上・貯木	七〇七	一、九四五、七五六	一一二、九三八	三、一一一
雜工	貯木場	一八	四六、三〇二九	八、〇五八	七八、三〇七
砂防設備新設		九		九四、三〇七	

第五測定　國有林の境界査定、周圍測量等に從事するものなるも已に其大部分は完成せられ現時其業務甚僅少なるが如し（未完）

隨筆

征途の思ひ出

十回卒　喜多村　明

噫々今日は三月十日最早昔の夢と過ぎ去りぬ、幾多の英靈を葬りし奉天の地よ今如何に我々先輩の尊き犧牲を拂ひし其の有樣浩然と胸に浮びて坐ろ涙を催すのみ、僕も此の度此の先輩の尊き犧牲の後を追はんと出征した一人です、諸君も知る今度の出兵の目的は第一東洋の平和維持第二過激派を征討しチエクスロウバック及セミヨノフを援助し露國民をして平和なる日を送らせんが爲めである、此の大なる使命は僕等管下の師團に降下した、當時僕は山深き小川の谷に活動？して居た、世間は追々と騷しくなつて來た物價の騰貴熱と共に西伯利亞出兵熱も昇つて來た新愛知新聞には第〇師團出兵云々の記事が記載してあつた僕は我知れず快叫した僕は夫れから後夜目も眠らず令狀の到着を待つたと一日出張所に居られる同窓のT氏から電話にて君の師團に動員令が愈々降つたが君は未だ來ないかとの電話之れ僕に動員を知らした暗示であつた丁度其の夕方僕は動員令に接した

赤い心を示す令狀を握つた時僕は欣喜雀躍

全上修繕合計	七、一六	三、二六九、九七、九七六
共通總計		二、八一七、八一、二一四
	四、一〇〇	二、二六、六七二
		一七九、四三一

（以下三面の下段へ續く）

とや言はん心かち萬歳と叫んだ直ちに聯隊に飛び付けた集まる面々皆活氣を呈して當るべからざる勢身体檢査も合格し戰場の花形たる機關銃隊に編成された、市民の熱聲裡に送られしは忘れもすまし九月八日であつた玲瓏なる軍樂隊の行進曲にいやが上にも我等の胸は緊張した、旅路は長き鐵道の軍用列車の人となりて各驛にて熱誠込めたる送迎に感謝の涙を流しつゝ逢坂山の險を越ゆ遙かに拜す淀川に武運長久を祈りつゝ松の綠も千代八千代打ち寄る波も小波の須磨や明石の濱も過ぎ二葉軍記の一の谷熊谷武者を偲びつゝ廣島に着きぬ

字品港に集りし御用船の檣頭に日の丸の旗翻り我等が征途を祝福するが如し逆卷く怒濤の玄海に或は高く或は低く飛ぶ鷗を眺めては昔常陸佐渡の遭難の事思ひ浮び坐ろ暗涙に咽びぬ釜山港に着きぬれば新同胞のはらからが日の丸の旗打ち振りつつ萬歳聲裡の送迎に涙を咽ばん者ながらし、愈々異國の空に來りしよな、遙かに東の空を眺むれば中天に高く低く東に向つて驅ける鷗の群、思はず遠き故郷の空に身を寄せて我無事なる事を東の空に飛び行く鷗に……

愈々大陸鐵道に身を乘せて北へ北へと進み行く白衣も丁包まれたる鮮人の日の丸の旗打振りつゝ送迎するも懷も市街に近き山々には造林の跡見わて何んとなく奥床し然し夫れも束の間再び岩石巍々たる兀山打續き白衣の鮮人が牛を追ひつゝ薪取るも見受けぬ龍山も過ぎ鷄冠山も夢の間に新義洲に着きにけり、鴨綠江の流れ淡々として紺碧を漂せ流れに浮ぶ眞帆片帆ランチの音も賑しく其の船舶の輻輳せる樣いとゞ國境を偲ばしむ、烟を水に漂せつゝ靜かに安東に着く住民皆白衣に包まれし人民も卅一重にて黑衣の人民と化しぬ面白き對照ならずや

只々變らぬ光の窓の月氣車の窓より眺めつゝ鬼にも似たる武夫も情けに脆き露の宿一望千里涯知れざる滿洲の野を走りぬ

朝鮮路にて山又山にて迎へられじ身の一望千里只高粱の畑にて不完全なる道路を數多の驢に曳かせつゝ節面白き亡國的の支那歌の變る景色を眺めつゝ長春に着く此處より東清鐵道に乘り換ふ鐵道從業員は全部露人となる、ハルビン驛に故伊藤公を偲びつゝ滿洲里も程過ぎてシベリヤ路に入りにけり風土は全然異りて一望萬里とは此の事をや言はん見渡す限り荒漠たる原野にて家屋の一軒すらも見わす而して此の鐵道は石炭代用として薪を使用する爲め烟突より漏るゝ火の粉は草叢に飛火して盛んなる野火となる、然し誰一人として之れを消火する者なく爲めに火は風にあふられて見る見る内に燃ひ擴がり一面火の海と化す野蠻的とや言はん甚しき所に至りては電柱の燃ひて漸く土方の腕木の部分のみ殘り針金に吊されて風のまに〳〵搖られて居るが如き狀態なり

無人の原とは言へ實に其の放任的の振舞には開きたる口も閉がらず此の野火を校間眺むる時は實に見事なる物なり驛々の部落は凡そ百戸餘りより成り彼等が生業は皆牧畜を主とす而して彼等は宗教心旺盛なる爲め僅か三三十の寒村にも實に立派なる教會堂設置してあるは如何に彼等が宗教心を持ち居るやを想像せしむ中空高く登ゆる金色の十字架に鈍き太陽の光映じて鳩の群の飛び廻る樣實に長閑なり、一般住民の食糧缺乏甚しき爲め驛に我々の列車の到着する時は爭つて糧々なる食糧を求めに來る、皆日本語にて廻らぬ舌を口元可笑しくパン下サイ、ヌトウ下サイと言ひて實に憐れなる有樣なり義に厚き日本軍の此の有樣を見ては默過する能はず自分の食糧の許す限り彼等に與へたりカルイムスカヤにて黑龍線にて合し復線となる汽車は日本と反對にて右側を走る而してシベリヤ鐵道の名物とや言はん時間の觀念なるものは更になく停車すれば何時發車するやら何日停車するやら不明の有樣にて實に驚くの外なし、而して其の運轉

手は如何にと見れば滋罐車の中は濁拔けの殼にて乘務員は皆酒場に行きて淫樂に耽けると云ふが如き狀態にて實に言語に絶す

こんな狀態にて漸くベリヨゾフカに着す。荒漠たる原も此處に來ればいつしか晝尙暗き鬱蒼たる森林となりて下木は更になく只麓に肌白き白樺密生し其の上部は綠飽く迄濃き松の生ひ茂りて其のコントラストの調和實に愉快を感せしむ、山は傾斜緩にして地味も可成肥沃にて松林に入る時は恰も小川の神宮備林に入りたるが如き感を抱かしむ而して其の松たるやよく檜に似て梢頭約二尺位に小枝あるのみにて樹幹眞直にして曲り節なく實に見事なるものなり

然して其の材質は余り良好ならず脆弱にして割裂し易し成長量の如きも彼の地は冬期長く五月に至りて始めて融雪時期に入り八月半ばより温度零度以下に達する狀態なれば從つて其の年輪の如きも不同にして夏期一時に成長する傾あり、從つて利用の方法も內地に於ける如き四分板六分板等なく最も薄きものにて一寸なり製材は人力によらず總べて電動力を以て堅鋸を使用す而して從業員は皆墺匈國の俘虜之れに從事す普通人民にて林業に干はる者更に見わす故に新聞にても承知し居らるゝ如く實に森林は豐富にして直徑一尺以上の立木密生し傾斜適度なれば斯業に志さんとせば實に跳へ向きなり、加ふるに彼等人民は燃料を得る爲め枯木を求めて之れを伐採し居る狀態なれば森相の外觀も實に見事なり

此の天惠なる森林は敢て諸氏等の來訪を鶴首して待ち居るなり行け、行け、諸氏我等が活動地は最早朝鮮に非ず、滿洲に非ず、はた蒙古に非ず、シベリヤの地こそ諸氏等の活躍地なれ、奚んぞ汲々として內地の空氣を吸ひ居る哉、知れ！

一葦の西には斯かる寶庫のある事を、行かん、伴せんシベリヤに、斯かる狀態なればシベリヤの將來こそ誠に注目すべき所なり而して余が彼の地の人情風俗を皮相せし處を述べん、

人情は實に温和にして交通の不便なる所なるだけに人に對する依賴心强く異國人ながら二言三言交はす時は忽ち千年の親しみを感せしむ、風俗は內地と全然異なる事は明かにして一々茲に列記し難けれ共只鄕に入りては鄕に從への言葉の通り知らず〳〵其の風俗に染むるものなり

唯彼等の禮儀の厚きには感服するの外なし例へば初對面をする時には必らず紹介狀を要するが如き又大人は云ふに及ばず頑是なき子供に物を賴みし時には必らず相當の報酬をなす事此の二事に徵しても明かなり、斯かる狀態なればシベリヤ發展は又に至難の事に非ず、却つて有爲ある青年の內地に在りて物價騰貴の今日齷齪し居らゝ方却つて至難の事に非ずや呵々、文化の程度は餘り高かゝらず學校の如きも四百戸位の町に漸く小學校壹ケ所位の有樣なり從つて其の頭も幼稚にして發明力なるものは更になく只彼の國の發明品としてはサモアールと稱する湯沸器あるのみ故に賢明なる諸氏等の遠征は彼等に開化の端緒ともなるべきものなるか乞ふ諸氏蚊龍雲雨を得ば池中のものに非ざるなりとやいふにあらずや。

茲に駄筆を弄して貴重なる誌上を汚せし事を諸氏に詫びる所なり。

通信

秋田便り

田中生

△秋田市に於ける長野縣人會故鄕を他所に他國に流浪する身は、同鄕の者に會へば云ひ識れぬなつかしみを感ずるまして僕のやうな獨身者の每日下宿屋の二階に齷齪してゐる人間には、格別の慰安となる、今度縣人會があるから出席するやうにと、幹事の遠藤さんから通知をもらつた時の嬉しさ、その日を待ちわびて、二月二十二日午后五時春雨のシト〳〵と降る中を會場たる川端の洋食店旭亭に歩を運ぶ、此夕會合した人人は左の十四名

鐵道院技師　新海榮一（南佐久）
鑛山專門學校生徒　中澤與十郎（松本市）
仝　林正明（上伊那）
地方裁判所判事　中島近江（南安曇）
大林區署山林技師　遠藤歸一（福島）

鑛山專門學校生徒　原　義　道（駒ヶ根）
仝　教授　堀江久勝（松本市）
河邊郡農業技手　中　村　東（更　科）
藥種商　金　山　久藏（下水內）
赤十字病院醫員　堅　山　薫　喜
仝　青　木　繁（松本市）
秋田大林區署　小岩井茂樹（同　窓）

と斯く云ふ小生、ビールを傾けつゝ料理をつつゝきつゝお互ひに胸襟を開いて充分の快をつくす、菓子が出て、林檎が出て、コーヒーが出てやがて開散する夜の十一時まで……

―八、二、二五―

シンガポール便り

十五回卒　古　根　動

拜啓其後は意外の御無音に打過ぎ申候段平御寛量被下度候。殘寒尚凌ぎ難きの候尊師には如何御消光被遊候や伺申上候、隆而小生儀日々御教訓固く相守り無事職務に勉勵仕居申候間他事乍御放念被下度候故國は今も尚ほ山野總べて白雪の外眼を遮ぎるものも無き事と存じ候されど不變の當地は勿論春夏秋冬の區別なく來る日も來る月も將又來る年も青々と茂る草木と赤き土と燒き付く太陽の世界に無智なる土人を友としての仕事なれば何等外部よりの刺戟を身心に受けざれば日一日と退歩はすれど進歩するが如きことは是無き事と存ぜられ候

勿論世界の大勢は知るに由なく文明風にあたる事もなければ五感の働きはにぶくなり考はうとくなり身體は虛弱となつて二三年の後には心身共に烈しき活動に堪へ得さるとの事に候。身心に引締の無くなるは內地の夏の如く一度手紙を書かんと思出して後二三ケ月を經ざれば書き上得ざるが如き次第にて候。彼の美しい熱帶の植物の花の如き或は、バナ、ヤシ、パインナップル等の野生せるものは全然見ること出來す內地に於て南洋視察者で御座るやれ無錢旅行者で御座ると喋々と語るを聞き見るとは雲泥の差なるには實に驚入申候、されど小鳥には奇形異彩のもの多く銀の鈴を振るかと思はれる聲の書尚黑き原生林の中に聞ゆるは又格別にて群猿のキキッと叫びで逃げ入るも面白く御座候、洋々たる河其岸邊に茂る椰子林其葉蔭に滿月の懸る折から哀れなる歌に連れて土人の舟の靜かに金波を分けて往來風情こそ云はれず是のみは南洋の獨專げに千金の價に御座候

ペンの運に連れて思ひ出でし事共卒業生の參考にもと思付候まゝ次に順序も無く書き並べ申し候

一、氣候　温度は年中均一にて熱さも內地で想像する程の事は無之候即ち八九時將に燒き付くが如くならんとする頃より涼風そよ〳〵と起る爲め學校で夏季實習を行ふよりも却て樂の如く感ぜられ申候

一、病氣及衛生　當地の主なる病氣はマラリヤ熱なれど是に罹病するも死亡するが如き事は全然無之由に御座候其外には格別特筆すべきものは無之候　立派な病院病室の設備もあり腕のよい醫師も二名かゝへあり申候羅病の際にも服用藥代は一品一日分代が參錢にて候　マラリヤ熱豫防としては百方手をつくし蚊捕線香は會社より一同に給與せられ居候新嘉坡にて齒の治療をなす時は內地の五乃至十倍の御金を要する由なれば期かる人は宜しく內地に於て全部治療致す方宜しからんと愚察仕候

一、位置　新嘉坡を去る數十里の山中にて隔日一回の小蒸氣船に依つて交通運搬の用に供し居り申し候

一、風俗　前記の如く避地なれば出新する事少く年に一回多くて二乃至三回なれば彼の恐るべき誘惑と無駄費用の徒費少く爲に前途有意の青年を誤らしむるが如きことはこれ無く候

一、俸給　就職後三ケ月間は二〇弗にて其後は二五弗昇給は年に一回五弗以上とのことに候目下此外戰時手當が俸給の六〇％有之候

一、費用　食費一ケ月一五弗乃至一八弗着物（單物）も一樣にて充分なれば月給にて充分に御座候

一、貸與及給與品　一室　ベット　布團　敷布　枕　蚊捕線香　ランプ　蚊張　机　椅子等にて候

一、日本人　社員　所員　妻子　下男女　料理人　勞働者　合計百名以上にて候

一、勞働者の種類　日本人　支那人　馬來人　印度人　ジャワ人　等にて候

一、仕事　護謨液採集の監督が主にて其外には採液區の主人位にて候

一、休暇　一ケ月間の中一日　一五日の二ケ月を公休日に定められ申居候

されど護謨液採集は雨天其外止むを得ざる場合の外休まざれば從つて其監督を要するを以つて此等の月も午前中は出勤の要有之候尚ほ人多き場合は交る〳〵休業致居り候

一、娯樂機關　テニス　ビンポン　大弓　擊劍　俳句會雜誌　蓄音器　等にて候

一、言語　目下の通用語は馬來語にて候是は當地にて實地を大に勉強し得半年にして仕事に關する簡單なる命令を發し得らるゝ樣に相成申可候　ゴム山を一歩外に踏み出せば英語の必要を痛切に感じる由にて只今の當園にては印度人の英語教師を招き一同勉強致し居り候

一、携帶すべき品々

單衣（白衣共）	四乃至五	毛布	針　糸
襯衣	四乃至五	手拭	ハンケチ
サルマタ	三乃至四	ナイフ及カミソリ	
ズボン下	二乃至三		
襦袢	一乃至二	石鹼及容器	齒磨粉及揚子
ゲートル	靴下（多き程可なり）	帽子（ソフト或はヘルメット）	等

服は勞働用のものは學校時代の夏服にて充分に御座候尚ほ新らしくは新嘉坡にて作る方可ならんと存じ候

靴は勞働用のものは學校時代のものにて結構に候

以上は思ひ浮びし大畧にて候

文苑

病裡雜詠（其の三）

十三回卒　宮下更村

月かすけく月の光ぞ射し居たる
風の音しげき窓のガラス戸
やうやくにうと〳〵すればはや既に
汽笛するどく曉を告ぐ

母校運動會を見て

ガア〳〵と叫びつ羽ば太くあひる追ひ
追ッつ押へつもどかしきかな
スタートに腰をかゞめて合圖持つ
三十路男の無邪氣なるかも
まだ〳〵の聲に落付き悠々と
蠟獨なほし五等とるかな

スタートにかゞみ片唾のみなり
月が瀨にて　安井正夫
香をとめてあまたの人の集ふかな
世に名も高き月が瀨の梅
梅の花つきがせ川にかげしづみ
にほひのみこそ浮び立ちけれ
白髮梅といふ古木の梅花
いとうるはしかりければ
老いぬれど白髮のうめは中々に
若木にまさる匂ひなりけり

和歌浦にて

身の老もうち忘られてわかの浦に
あそぶ今日こそ樂しかりけれ

雜報

學校便り

○卒業式　三月廿三日午前十時より第十六回卒業證書授與式を擧行す、國歌合唱、勅語捧讀、學事報告、證書授與、校長訓辭、知事告辭、來賓祝辭、在校生送辭、卒業生答辭の順序にて滯なく閉式せり。縣廳よりは知事代理として佐藤學務課長臨席せられ來賓としては宮川中佐、日戸帝室林野局技師、伊東町長、各新聞記者その他生徒父兄保證人等多數なりき。

知事告辭左の如し

告　辭

木曾山林學校卒業生諸子多年の勉學の功成り本日卒業證書を受くるの光榮を寿ひたるは洵に慶すべきなり

抑々我長野縣は其の面積廣大にして至る處鬱葱たる美林の存するは全國稀に見る所なり而して此等の利源を開發し其の福利を進むるは實に國家百年の計を爲す所以なりとす

惟ふに產業は改良發達を圖るゝ途二にして足らすと雖も實業教育を振興し以て秩序あ

る教育を授け健全なる思想を有する從業者の養成に努むるを以て第一義とす是れ曩古未曾有の時局の後を承け戰後の國策を樹つるの時に際し本縣特に實業學校を興し更に縣勸業上の方針と相俟ち專縣一致農産業の發達振興に力を用ひんとする所以なり此の時に當り多年本校に業を受けたる新進の諸子將に出て實務に就き其の學へる所を實地に應用し以て國家社會に貢献する所あらむとす諸子の前途寔に多服なると共に其の責任亦重しと云ふべし已に諸子は本校に於て一般の學理を修め實習を了へたりと雖も尚不斷の研鑽と修養とを怠らす其の社會に於ける地位を自覺し自彊の精神を以て益々奮勵し大成を將來に期し以て素養ある實業者の面目の發揮し本校教養の趣旨に副はんことを切に望みて已まざるなり

本日卒業式に際し聊か所懷を陳て告辞とす

大正八年三月二十三日

長野縣知事正四位勳三等赤星典太

祝辞

戰後の新機運に際し我が國林業の施設經營愈急を告ぐるの秋に當り諸子今や其の志す所の林業教育を卒る諸子の滿足何物か之に過ぎん是れ固より教員各位の薫陶宜しきを得たるに依ると雖も亦諸子奮勉精勵の結果たらずんばあらず、

惟ふに方今我が國林業の狀態に鑑み諸子の今後の活動に期待する所多大にして蓋し猶前途頗る遼遠なり茲に於てか諸子の責任も亦重且大なりと云はざるべからず諸子將來益斯業の促進發達を企圖し更に進んで林業上に於ける專門的學識と實際的經驗とを積み以て後日の成業を期するも共に我國林業の向上發展に貢献し亦以て本日の卒業の榮譽を長へに發揮せんことを望む聊か一言以て祝辞とする

大正八年三月二十三日

新聞記者總代　信濃日々新聞記者　近藤忠三郎

祝辞

諸君に御承知もありますが私に西方寺の住職で予の子供は世に云ふ三代相恩と申す譯で三寸皆此の校の教養を受けんも卒業時何時も予の外出に際し遠に一言の謝辞を述ぶる機會を失したのであります今日井上新次郎の保護者となり御案内をうけ茲に漸く云々するを得る次第であります、尤も平素子供に話しつゝ、あるを申上げるので或は多少たこがまんい節もあるかも知れませんが取捨は各位の意に任せたいと思ふ

諸子の始め一身を學校に托するや孜々黽勉夙夜となく寒暑を厭はず其の功を螢雪もて積む艱苦は則ち艱苦なりと雖も前に師長の推挽あり後には同窓の補助あり才能を磨き過失を箴め其の愛其の慈至れり盡せり茲を以て大不才者に非ざるよりは其の日常の行爲に於て蹉跌をなす者は殆んど稀なり、若し夫れ一旦業を卒へ學校より退かば既に師長を離し同窓に遠ざかり忽ち孤立獨歩の境に入らん、啻に孤立獨歩の境に入るのみならず世途の崎嶇たる人事の紛々たる外誘の神魂を搖動せんとするもの一にして足らず恰も行路に馴れざる者杖を荆路に曳くと同じきを以て其の苦辛幾層を加へん故に卒業の諸子は堅忍の志を持し心目を他技に移さず一意專心業務に身神を委ね一大樂土を樹立せんには頗る宗教の力によらずんばあるべからず然らば各其の方面に向つて精神を陶冶し上は國家の祖先威靈に對し下は縣治の裨補とならん事を莫ふ今日この席末に列する教職員諸氏に從來の恩顧を謝し併せて此の光榮ある諸子に希望する所を述べ聊蕪辞以て祝辞に代ふと云爾

大正八年三月廿二日　日野唯眞

送辞

三冬の苦寒既に去りて蘇峡の山野鬱々たる和風に滿つるの時、茲に本校第十六回卒業證書授與の盛典を擧行せらる兄等か今日の光榮何者か之に加へんや

惟ふに兄等今日此光榮あるはこれ偏に校長先生並に諸先生の懇切なる薫陶啓發の致す所なりと雖も又兄等か孜々として撓まず屈せず能く螢雪の功を積みたる成果たらずんばあらず、今や本校の課程を卒へ潑溂たる元氣と洋々たる希望とを抱き吾林業界に雄飛せられんとする、兄等の得意實に想察するに餘りあり、抑現時の情勢を考察するに深く閉させし戰雲漸く晴れて平和來り各國競つて萬般事業の擴張發展を計らんとす

この時我國林業界に於ても亦益々多事多忙

を極めんとし新進氣鋭の兄等を俟つ事切なり兄等の前途何そ夫れ希望に滿てるや、何そ夫れ責任の重且大なるや、大に努力し國家の爲め斯業のために盡されんことを切望して已まざるなり

顧みれば兄等は生等入學以來常によく友愛の情誼を盡して指導誘掖せられたり然に生等未だこの恩誼に報ゆるの遑なく今日爰に袂を分たんとす、惜別の情何そ堪んや然りと雖も生等は益々努力勉勵し兄等の志を繼きて益々校風の發揚に勉め敢て諸兄の後進たるに愧ちさらむことを期す、冀くは諸兄よ今後と雖も生等後進輩を懷ふこと舊日の如かし、情功にして言ふところを知らず聊か蕪辞を述べて送辞とする

大正八年三月廿三日

在校生總代　遠山虎雄

答辞

鳥禽ばはんとして幽谷に翼を張り東野の霞漸く覆都として將に春陽の佳季を迎へんとするに當り茲に本日を卜して生等四十有八名のために卒業證書授與の盛典を擧行せられ長官閣下代理並に來賓各位の御臨席を辱うし加ふるに懇篤なる告辞及び祝辞を賜り且つ在校生諸君の懇懃なる送辞を辱うす生等の光榮生等の感激何物か之に譬へん

顧みれば生等本校に入學以來春秋三星霜頑鈍なる此の身にして猶今日の此の榮譽ある所以のものは偏に校長先生を始め諸先生の薫陶誘掖の厚きに由らざるはなし今又生等の前途に向つて校長先生の懇到劇切なる教誡を垂示せらるゝあり萬感交々至り感憤已む能はず

思ふに我國戰後の經營として經濟的大發展を期せんには諸種實業の振興擴張を要とすると言を俟たず林業界の前途も亦多端ならずんばあらず生等今や纔に學成りてこの多端なる林業界に入らんとするに當り其の負荷の重且つ大なるを知ると共に身能くその任にあらざるを思ひ悵然たらざるを得ず然れ共之を聞く槌打つて止まずんば磐石も碎くべしと至誠の向ふ所何物か之を阻まんや。生等不敏と雖も誠心誠意事に當り俯仰天地に恥じず謹しみて長官閣下來賓各位並に校長先生の高諭を服膺し益々拮据黽勉して他日の大成を期し以て鴻恩の萬一に報い今日卒業の光榮を空しうせざらんと欲す謹しみて卑衷を陳べて以て答辞となす

大正八年三月二十三日

卒業生總代　鷹見勳

◎當日祝電を寄せられたるもの左の如し

「貴校の盛式を賀し諸君の健康を祈る」　横濱にて　松岡縣會議員

「本日の卒業式を祝す」　宮の越　手塚日義村長

優等者皆勤者精勤者左の如し

卒業生

優等者　鷹見勳　米久保春雄

皆勤者　井原邦雄　篠厚壽英　米久保春雄　富士川金二　大久保幸福

精勤者　家高碩二

在學中　米久保春雄　富士川金二

精勤者　大久保幸福

第二學年

優等者　遠山虎雄　千田瑞穂　高橋秀惣

皆勤者　八木愿藏　岡西萬秋

精勤者　吉田正男　震上正次郎

第一學年

優等者　井戸利夫　中島省三　森田孝太郎　村松一郎　今野啓三　中田基一

皆勤者　中島省三　中田基一　柳澤虎三　渡邊時夫　片原裕一

精勤者　井戸利夫　今野啓三　荒木要　藤井鉚

○送別會、謝恩會、卒業式終了の後午后一時より校友會送別會を開きて別離を惜み終つて卒業生は職員一同を招待して茶菓を供し歡談數刻謝恩の意を表せりその後記念寫眞の撮影をなす

○始業式　四月一日午前九時より講堂に於て擧行、校長出張中にて西澤教頭代理して校規の嚴守等に就いて訓諭する所ありたり

○入學試驗　本年度入學試驗は四月一日午

前九時より開始して午后二時半終了せり志願者總數九十二名にて內譯長野縣四十九名岐阜縣二十六名愛知縣七名福島縣三名嚴手、愛媛、石川、島根、山梨、兵庫高知諸縣各一名づつなり、本校に於て受驗せる者二十二名本縣郡市他府縣に於て受驗せる者七十名なりき

○入學式　試驗の結果入學を許可せられたる者左記六十二名に對し四月十四日午前十時より講堂に於て擧行、國歌合唱、勅語捧讀、校長式辭、在校生總代（高橋秀憲）の迎辭、入學生總代（松澤岩作）の宣誓の辭、父兄總代（岐阜縣川上村長原市助氏）の謝辭ありて式を閉ぢたり

入學生氏名及原籍（成績順）

長野縣下伊那郡　松澤岩作
仝　下伊那郡　葛岡唯雄
仝　西筑摩郡　市岡巖
仝　西筑摩郡　前野義宗
仝　下伊那郡　石原元
岐阜縣惠那郡　小縣正幸
高知縣長岡郡　門田鷲
嚴手縣西磐井郡　千葉清種
長野縣西筑摩郡　原主水
岐阜縣惠那郡　片田敏郎
山梨縣北巨摩郡　堀內英一
長野縣上水內郡　岩井泰二郎
仝　西筑摩郡　大島探男
兵庫縣美方郡　宅見剛二
岐阜縣武儀郡　福井浩
長野縣西筑摩郡　高田金次郎
仝　井口幸一
岐阜縣惠那郡　伊藤良雄
島根縣邑智郡　稻積猶介
長野縣上伊那郡　赤羽仲衛
仝　下伊那郡　宮澤孝
岐阜縣惠那郡　樋田良市
長野縣西筑摩郡　古畑豊
岐阜縣武儀郡　塚本助市
長野縣南安曇郡　小松順市
仝　長野市　須田順吉
仝　東筑摩郡　太田幸保
愛知縣西春日井郡　原久吾
長野縣西筑摩郡　山田憲夫
仝　東筑摩郡　原宗重
仝　西筑摩郡　大池澄雄
仝　東筑摩郡　松岡九三
仝　西筑摩郡　桃井武男
岐阜縣加茂郡　片桐藤吉
愛媛縣新居郡　近藤清美
長野縣上伊那郡　宮澤要
岐阜縣益田郡　今井與一郎
仝　吉城郡　田近三郎
長野縣上伊那郡　北原隆賴
岐阜縣岐阜市　後藤虎之助
仝　可兒郡　奥村萬平
長野縣上伊那郡　有賀三男
岐阜縣加茂郡　安藤覺
長野縣諏訪郡　柳澤求一
仝　西筑摩郡　永井武治
仝　白洲章吾
仝　南安曇郡　奥原謙次郎
仝　北佐久郡　大井吉日兒
仝　東筑摩郡　小林孝三郎
岐阜縣惠那郡　林繁市
長野縣上伊那郡　藤野千束
岐阜縣武儀郡　加藤和一郎
仝　惠那郡　平出耕一
山形縣南置賜郡　鈴木壽雄
愛知縣碧海郡　稻垣阪樹
長野縣下伊那郡　鳴澤俊伯
仝　藤島信
石川縣羽咋郡　岡田廣平
長野縣東筑摩郡　三村和夫
仝　西筑摩郡　小幡榮一
仝　大澤次郎
仝　下高井郡　山岸七之亟

○級長任命　三學年級長、副級長左の通り任命せられたり（四月十日）

三學年
級長　高橋秀憲
副級長　米倉巧

二學年
級長　村松一郎
副級長　宮城吉雄

○實習　四月一日より直ちに實習に着手せるが本年度春季實習の豫定左の如し、

一、苗圃の播種及床替　約一町歩
一、造林地の新植及補植　各約二町
一、農作物の仕付　約二反七畝歩
一、植物園及庭木の手入　約五百坪
一、植栽地の手入　未定

○西筑摩郡准教員養成所西筑摩郡の經營に成る一ケ年修業准教員養成所當四月より本校に設置せられ四日入學式擧行十日より授業を開始せり

校友會便り

○役員任命　本年度校友會役員は四月十日左の如く任命ありたり

庶務（副部長）安藤清吉
庶務（副部長）高橋秀憲
雜誌（副部長）深澤佐愛
雜誌（副部長）立道乙松
辯論（副部長）小千田瑞穗
辯論（副部長）米倉球次
擊劍（副部長）吉田正巧

庭球（副部長）遠山虎雄
庭球（副部長）向井一男
弓術（副部長）長田克己
弓術（副部長）八木愿藏
遠足（副部長）中越三郎
遠足（副部長）長崎信一
柔道（副部長）村上道信
柔道（副部長）花村準則

會員異動

○曾我義郎君　森林主事に任せられ倉吉小林區第一號倉吉保護區詰を命せらる、
○加藤朝太郎君　縣下上水內郡戸隱村林業技術員として勤務せらる、
○安藤晃君　青森大林區署に轉任せらる
○久保照人君　青森大林區署に勤務せらる
○宮崎惠喜太君　新潟縣より長野縣林務課に轉任せらる
○田中泰吉君　客年十月より北海道空知郡芦別村下芦別帝林局空知出張所芦別分擔區官舍に勤務せらる
○松島長二君　大津歩兵第九聯隊所屬の所今回大坂歩兵第三十七聯隊第四中隊に轉屬せらる
○丸山金三郎君　青森大林區署を辭し大阪西區幸町通二丁目中西木材工業株式會社に入社在勤せらる
○喜多村弘君　岐阜縣惠那郡付知町帝林局出張所に轉任
○岡戸郁治君　朝鮮平安北道厚昌郡雨新面裕和洞派出所に勤務
○佐藤一郎君　長野縣上高井郡役所に轉勤せらる
○肥田幸一郎君　東京市外目黑村三田一六
○に於て養鷄業に從事せらる
○畑卓三君　神奈川縣大磯帝林局出張所に

奉職

本年卒業生就職地（既定分）

愛媛縣別子鑛業所山林課　米久保春雄
仝　上　篠原將英
山形縣廳林務課　宮澤末雄
北海道夕張炭礦株式會社　野本美嘉
茨城縣高萩小林區署　小林盛大
長野縣蚕科農學校　箕部覺明
南滿洲鐵道株式會社　米山芳郎
岐阜縣廳　大坪時治
東京大林區署　家高碩二
青森大林區署　大久保幸福
靜岡縣王子製紙中部分社　山崎多門
青森大林區署　小松義三
靜岡縣王子製紙中部分社　仲谷馨
青森大林區署　畑要司
東京目黑山林局林業試驗所古　佐藤誠一
盛岡市岩手縣廳林務課　藤澤甲子十
長野縣杉本小林區署　福川正三
仝　小林盛大
仝　糸魚川良二
仝　前野秀宗
仝　藤澤甲子十
仝　青木忠太
仝　家高碩二
仝　丸山林一
仝　井上新次郎
仝　岡庭泰平
仝　征矢三郎
仝　佐藤誠一
仝　唐澤正義
仝　喜多村勇
仝　草間勝
仝　後藤豐吉
仝　小崎次郎
仝　中村治郎

林友代領收報告

金壹圓五拾錢
仝　篠原奬英君
仝　米久保春雄君
仝　林森君
仝　大久保幸福君
仝　星加晴雄君
仝　伊藤近良君
仝　佐塚甲子君
仝　宮下武夫君
仝　野本美嘉君
仝　米山芳郎君
仝　小松義三君
仝　山本茂君
仝　鷹見勳君
仝　坂卷利一君

謝恩金領收報告

北村先生分　金壹圓　平田久良治君
米久保春雄君　金壹圓　加藤七藏君
林森君　新家先生分　金壹圓
大久保幸福君　金壹圓　出雲秀一君
星加晴雄君　金壹圓　平田久良治君
伊藤近良君　金壹圓　竹村節三君
佐塚甲子君　金壹圓　征矢朴郎君
宮下武夫君　宮川先生分　金壹圓
野本美嘉君　金壹圓　平田久良治君
米山芳郎君　金壹圓　征矢朴郎君
小松義三君　金壹圓　坂本光太郎君
山本茂君　金壹圓　廣瀨運平君
鷹見勳君　金壹圓五拾錢
坂卷利一君

謝恩金募集廣告

拜啓春風駘蕩の折柄各位愈御清穆の段奉慶賀候陳者永年當校教諭並に舍監として御盡瘁下されたる宮川先生には今般御都合に依り退職せられ候に付此の際謝恩金を呈して聊先生の勞に酬いたしと存じ候間左記御了承の上何分の御寄贈に預り度此の段得貴意候也

一振替にて御送金の場合は東京一七六〇〇番木曾山林學校宛のこと

一締切期日は來る五月末日限のこと

一領收證書は一々不差上誌上にて御報告可申候也

大正八年四月

卒業生各位　　校友會

大正七年第拾八回運動會費決算

校友會豫算額	一金貳拾四圓也
寄附金總額	一金百五拾六圓五拾錢也
	一金百四拾七圓貳拾參錢五厘也

支出金總額

內譯

金八圓九拾四錢五厘也	庶務部
金五拾八圓八拾九錢也	接待部
金參拾六圓八拾五錢也	賞品部
金拾七圓六拾七錢五厘也	競技部
金八圓七拾貳錢五厘也	裝飾部
金五圓六拾九錢也	借物部
金貳圓九拾四錢也	樂隊部
金七圓五拾貳錢也	餘興部

差引殘金參拾參圓貳拾六錢五厘也

◉長野縣告示第九十號

樹苗養成竹林造成奬勵金交付規程左ノ通定ム

大正八年三月八日樹苗養成竹林造成奬勵金交付規程

第一條　樹苗養成竹林造成ヲ奬勵スル爲本規程ノ定ムル所ニ依リ毎年度豫算ノ範圍內ニ於テ奬勵金ヲ郡市ニ交付ス

第二條　奬勵金ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ交付ス

一造林ノ爲樹苗ヲ養成シタル者ニ對シ奬勵金ヲ交付シタルトキ

二竹林造成ノ爲母竹ヲ植栽シタル者ニ對シ奬勵金ヲ交付シタルトキ

第三條　奬勵金交付額ハ郡市ニ於テ支出シタル奬勵金交付額ノ五分ノ四以內トス

第四條　奬勵內ノ交付ヲ受ケムトスル郡市ハ其ノ奬勵金交付ニ關スル規程ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ改廢セムトスルトキ亦同シ

第五條　奬勵金ノ交付ヲ受ケムトスル郡市ハ申請書ニ樣式第一號ノ事業豫定書ヲ添附シ事業施行年度ノ前年六月三十日迄ニ知事ニ差出スヘシ

第六條　奬勵金交付ノ指令ヲ受ケタル郡市ハ樣式第二號ノ經費精算書ニ樣式第三號ノ內譯書ヲ添附シ翌年一月三十一日迄ニ知事ニ差出スヘシ

第七條　本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八條　大正七年長野縣告示第百五號樹苗圃奬勵金交付規條及大正五年長野縣告示第百十九號母竹代交付規程ハ之ヲ廢止ス

第九條　大正八年度ニ限リ第五條ノ申請書提出期限ハ大正八年四月三十日迄トス

（樣式ハ省略ス）長野縣ニ於テハ夙ニ樹苗養成竹林造成ニ努ムニ處アリテ右ノ規定ヲ發布シ奬勵金交付セシムルト云フ

編輯より謹告!!

暗香浮動、南枝先づ香りて、料峭たる曾峽の天地、漸く蒼々として遠景暗く、未だ紅葩彩らす雖も、將に白雲斜に翠松を掠の彩霞綠樹を縫はんとするの候光榮地に溢れ、歡喜天に充つ、校友諸兄此時にあたりてや定めし益々御清祥御奮[illegible]ことと奉存候。

降りて下冐不等諸材兄の御推薦を蒙りて校友會雜誌部に入り、此光榮ある使命を滿足せしめんとの抱負を持して及ばず手ちも筆を執りペンを握り候へども元より童蒙の才端何等精采活氣を有せず、果す所無く無責任なり遇去一歲を顧みて沐猴にして冠するの誹謗を免れざるは之れ慚愧に堪へざる所に御座候斯くの如き缺陷多き過去一歲、幾奇異新奇警なかりしと雖も不尙非才を擁して幸にも本部一ケ年の經路を通過し得たるは實に顧問先生の御指導と校友諸兄の熱誠ある御助力を措きては外に求むるものなく、深く深く感謝する所に御座候、感慨切に茲に本部を去るに臨み缺点多き一歲を顧みて忸怩憮然、校友諸兄の前に謝咎し、併せて本誌に對し相變らず御指導御助力を垂れ給はんことを希望致す次第に御座候尙一樹の蔭一河の流の譬不肖等嘗て本部に籍を置きしの緣故を以て將來幾久しき御指敎浴するの光榮を得たく伏して願ひ上候

副部長　鷹見　坪　大治

春光闌ならんとして新羅萬象陽光を浴び正に發せんとして天に榮光充ち地に喜悅溢れ候折柄我が敬愛せる校友會員諸兄には益々御清康之段奉賀候扨而世界の狀勢を顧みるに地天震ひて新思潮湧出し十九世紀の競爭文明は破壞せられ將に二十世紀の協同文明の新紀元を開かんとする秋に當り何等の主義方針なく隨つて活氣精采なる非才なる不肖等計らずも先輩諸兄の後を受けこの編輯の大任を讓らるゝに際し今更慚愧、不堪候幸に先輩諸兄生等の黃嘴乳臭の身の憫然たるを酌まれ、本誌に對し舊に倍じ御指導援助を垂れ、金編玉稿を雨下せられん事を偏へに願ひ上げ候併せて折々の御鞭韃御叱正に預り度く重ねて願ひ入れ候

副部長　立松道乙
部長　深澤佐愛

大正八年四月廿三日印刷
大正八年四月廿五日發行
長野縣西筑摩郡福島町四〇四番地
長野縣西筑摩郡福島町五七〇番地
編輯兼發行人　井川安正
長野縣西筑摩郡福島町五七〇番地
印刷所　夫
長野縣西筑摩郡福島町二八九番地
印刷所
（定價金參錢）